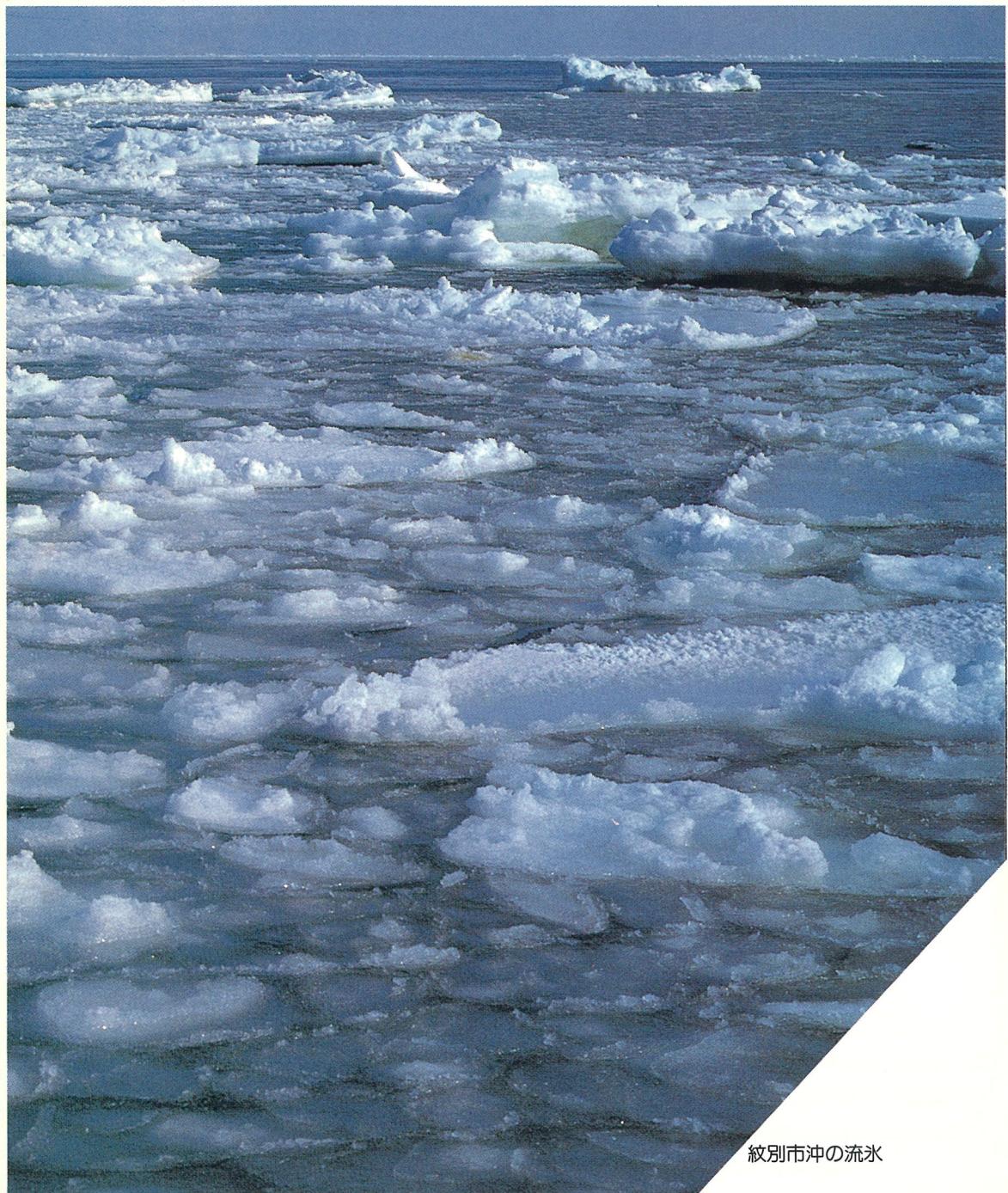


えこぶる 北海道

Ecology of Hokkaido
北海道公害防止研究所ニュース第6号 1990



紋別市沖の流氷

濃度が海洋環境の健全をめざす方針にます。(資源)

11、目下当所で精力的に分析力量をもたらす方針、供給用の需要(1)水質・底質の実態調査を行

海域(定期調査)、1港湾(貿易港)、2河川(北一関港

北海道(北)、有機土木工事(北平成2年度)、5

東北漁港(2)地點、底質(底質地図)。

12、全国調査地點の中心、有機土木工事検出結果の

環境汚染(北)、1984年の結果。

図-3 世界のOTsの生産量の推移



削減の使用自願申込。

13、全国漁業連合会による

有機土木系漁業防污

規則(1987年)

の制定と見直しがな

被覆材料の需要などの発生抑制用(図-3の点)

に対する対応策。

14、日本では1976年

の底層水生種を禁じた。

底層水生種を禁じた化物(TBT)。日本では1976年にこの規制が実施され、TBT一体(3個付1/2物)は船舶の安定性(1/2物)が2回付1/2物)が主にTBTのうち5D1一体(有機物)が用いられたことを禁じた。有機土木化物は難燃性が低いと考へられ、水銀・鉛・ウレthane等の付加性物質がTBTよりも多く見られる。有機

(銀)やアルミニウムなどの金属元素が含まれる。

図-2 付加性物質の化物(TBT)。

15、合金スルカバ

16、溶媒による洗浄

17、(銀)付銀

18、(銀)付銀

19、(銀)付銀

20、(銀)付銀

21、(銀)付銀

22、(銀)付銀

23、(銀)付銀

24、(銀)付銀

25、(銀)付銀

26、(銀)付銀

27、(銀)付銀

28、(銀)付銀

29、(銀)付銀

30、(銀)付銀

31、(銀)付銀

32、(銀)付銀

33、(銀)付銀

34、(銀)付銀

35、(銀)付銀

36、(銀)付銀

37、(銀)付銀

38、(銀)付銀

39、(銀)付銀

40、(銀)付銀

41、(銀)付銀

42、(銀)付銀

43、(銀)付銀

44、(銀)付銀

45、(銀)付銀

46、(銀)付銀

47、(銀)付銀

48、(銀)付銀

49、(銀)付銀

50、(銀)付銀

51、(銀)付銀

52、(銀)付銀

53、(銀)付銀

54、(銀)付銀

55、(銀)付銀

56、(銀)付銀

57、(銀)付銀

58、(銀)付銀

59、(銀)付銀

60、(銀)付銀

61、(銀)付銀

62、(銀)付銀

63、(銀)付銀

64、(銀)付銀

65、(銀)付銀

66、(銀)付銀

67、(銀)付銀

68、(銀)付銀

69、(銀)付銀

70、(銀)付銀

71、(銀)付銀

72、(銀)付銀

73、(銀)付銀

74、(銀)付銀

75、(銀)付銀

76、(銀)付銀

77、(銀)付銀

78、(銀)付銀

79、(銀)付銀

80、(銀)付銀

81、(銀)付銀

82、(銀)付銀

83、(銀)付銀

84、(銀)付銀

85、(銀)付銀

86、(銀)付銀

87、(銀)付銀

88、(銀)付銀

89、(銀)付銀

90、(銀)付銀

91、(銀)付銀

92、(銀)付銀

93、(銀)付銀

94、(銀)付銀

95、(銀)付銀

96、(銀)付銀

97、(銀)付銀

98、(銀)付銀

99、(銀)付銀

100、(銀)付銀

101、(銀)付銀

102、(銀)付銀

103、(銀)付銀

104、(銀)付銀

105、(銀)付銀

106、(銀)付銀

107、(銀)付銀

108、(銀)付銀

109、(銀)付銀

110、(銀)付銀

111、(銀)付銀

112、(銀)付銀

113、(銀)付銀

114、(銀)付銀

115、(銀)付銀

116、(銀)付銀

117、(銀)付銀

118、(銀)付銀

119、(銀)付銀

120、(銀)付銀

121、(銀)付銀

122、(銀)付銀

123、(銀)付銀

124、(銀)付銀

125、(銀)付銀

126、(銀)付銀

127、(銀)付銀

128、(銀)付銀

129、(銀)付銀

130、(銀)付銀

131、(銀)付銀

132、(銀)付銀

133、(銀)付銀

134、(銀)付銀

135、(銀)付銀

136、(銀)付銀

137、(銀)付銀

138、(銀)付銀

139、(銀)付銀

140、(銀)付銀

141、(銀)付銀

142、(銀)付銀

143、(銀)付銀

144、(銀)付銀

145、(銀)付銀

146、(銀)付銀

147、(銀)付銀

148、(銀)付銀

149、(銀)付銀

150、(銀)付銀

151、(銀)付銀

152、(銀)付銀

153、(銀)付銀

154、(銀)付銀

155、(銀)付銀

156、(銀)付銀

157、(銀)付銀

158、(銀)付銀

159、(銀)付銀

160、(銀)付銀

161、(銀)付銀

162、(銀)付銀

163、(銀)付銀

164、(銀)付銀

165、(銀)付銀

166、(銀)付銀

167、(銀)付銀

168、(銀)付銀

169、(銀)付銀

170、(銀)付銀

171、(銀)付銀

172、(銀)付銀

173、(銀)付銀

174、(銀)付銀

175、(銀)付銀

176、(銀)付銀

177、(銀)付銀

178、(銀)付銀

179、(銀)付銀

180、(銀)付銀

181、(銀)付銀

182、(銀)付銀

183、(銀)付銀

184、(銀)付銀

185、(銀)付銀

186、(銀)付銀

187、(銀)付銀

188、(銀)付銀

189、(銀)付銀

190、(銀)付銀

191、(銀)付銀

192、(銀)付銀

193、(銀)付銀

194、(銀)付銀

195、(銀)付銀

196、(銀)付銀

197、(銀)付銀

198、(銀)付銀

199、(銀)付銀

200、(銀)付銀

201、(銀)付銀

202、(銀)付銀

203、(銀)付銀

204、(銀)付銀

205、(銀)付銀

206、(銀)付銀

207、(銀)付銀

208、(銀)付銀

209、(銀)付銀

210、(銀)付銀

211、(銀)付銀

212、(銀)付銀

213、(銀)付銀

214、(銀)付銀

215、(銀)付銀

216、(銀)付銀

217、(銀)付銀

218、(銀)付銀

219、(銀)付銀

220、(銀)付銀

221、(銀)付銀

222、(銀)付銀

223、(銀)付銀

224、(銀)付銀

225、(銀)付銀

226、(銀)付銀

227、(銀)付銀

228、(銀)付銀

229、(銀)付銀

230、(銀)付銀

231、(銀)付銀

232、(銀)付銀

233、(銀)付銀

234、(銀)付銀

235、(銀)付銀

236、(銀)付銀

237、(銀)付銀

238、(銀)付銀

239、(銀)付銀

240、(銀)付銀

241、(銀)付銀

242、(銀)付銀

243、(銀)付銀

244、(銀)付銀

245、(銀)付銀

246、(銀)付銀

247、(銀)付銀

248、(銀)付銀

249、(銀)付銀

250、(銀)付銀

251、(銀)付銀

252、(銀)付銀

253、(銀)付銀

254、(銀)付銀

255、(銀)付銀

256、(銀)付銀

257、(銀)付銀

258、(銀)付銀

259、(銀)付銀

260、(銀)付銀

261、(銀)付銀

262、(銀)付銀

263、(銀)付銀

264、(銀)付銀

265、(銀)付銀

266、(銀)付銀

情報コーナー

■酸性雨つらら■

最近、コンクリートの橋桁やビルの地下駐車場などで、写真のような白っぽい「つらら」が垂れ下がっているのが各地で見つかっており、マスコミでは、これらを通称「酸性雨つらら」と呼んでいます。



「つらら」(約10cm)

「つらら」生成については、東京大学、千葉工業大学などで研究されています。これによると、建築後かなり時間が経つてコンクリート中の水酸化カルシウムが空気中の二酸化炭素によって炭酸カルシウムとなり、それが、後に雨などに溶かされることによって「つらら」になるとされています。

また、酸性雨の影響がある場合、「つらら」の生成が速いこと、酸性雨の主成分のひとつである硝酸の影響によって、コンクリートには含まれていない硝酸塩が「つらら」の中に見られることが、特徴となっています。

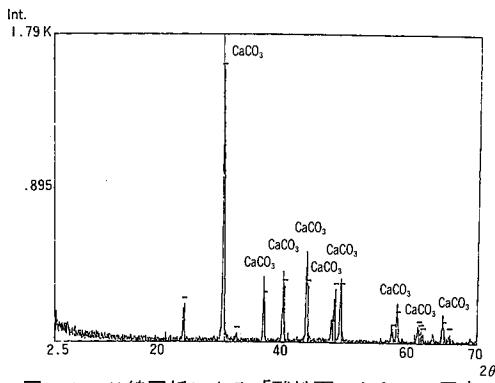


図-1 X線回折による「酸性雨つらら」の同定

最近になって、道内各地でも「つらら」が見つかっており、当研究所では札幌市内で採取（建築後25年のマンションのベランダの天井部）した「つらら」の成分分析を行いました。その結果、図の様に炭酸カルシウムが主成分（約94%）であることが分かりました。また、少ないながらも硝酸イオンが0.1%ほど認められ、これは酸性雨の影響をうけている「酸性雨つらら」の可能性があると考えられます。（野口）

トピックス

【国設利尻局—モニタリングスタート】

国設の利尻酸性雨離島局の開所式が11月30日、環境庁の奥村大気規制課長はじめ関係者の出席のもとで行われました。

局舎は仙法志の北北西約1kmに位置し、利尻の厳しい風雪に耐えられるよう堅固な作りとなっています。現在、気象計器、酸性雨自動測定機があかれ、風向、風速、雨のpH、導電率のデーターをとり始めており、逐次硫黄酸化物等の自動測定機も整備され



る予定です。

今、環境問題は日本の雨雪の酸性化に及ぼす大陸方面からの影響など汚染物質の国境を越えた長・中距離輸送問題、さらには未規制有害物質による地球規模の環境汚染等、ますます複雑化かつ広域化してきています。利尻離島局はこれらを解決するための貴重なデータを提供してくれることでしょう。（加藤）

交流コーナー



◎室蘭市（公害対策係）の巻

今回は北海道を代表する工業都市、室蘭です。「室蘭」＝「公害」というイメージも今は昔。工業都市の宿命であった数々の公害問題を克服し、工業だけの「固い」街から、地球岬に代表される美しい自然景観を生かした、「潤い」のある、そして、鯨ウォッ칭のような「夢」のある街へとイメージチェンジを図っています。

公害対策係とは当所設立時の大気汚染調査に始まり、20年来のお付き合いで、環境調査などで昼夜を問わず御協力をいただいています。



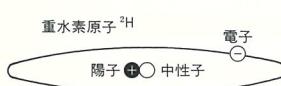
現在、公害対策係は渡辺係長以下5人、大気汚染防止法による政令市のため、ただでさえ忙しい中、最近はゴルフ場、酸性雨、地下水汚染など多様化する環境問題にも積極的に取り組んでいます。（加藤）

科学よもやま話

■電子■

近年、電子（エレクトロニクス）という言葉が、先端技術を象徴する言葉として使われる機会が多く、新聞記事などで親近感をもって読まれている。

一方、分子や原子の化学的性質を決定する電子はエレクトロンと呼ばれ、一般にアレルギー感が強く活字になることが少ないようである。



H_2 の原子核モデル

物質は分子からできており、分子は原子から、原子は原子核と電子からできている。電子は一(マ

イナス)の電気を帯びて

おり、原子核の周りを回っている。電子の数は原子の種類によって決まっている。たとえば、水素は1個、またヘリウム、リチウム、ベリリウム、ホウ素、炭素、窒素、酸素は2から3……8個と増加する。

原子核には、電子と等量の+(プラス)の電気を帯びた陽子があるので、原子は全体として中性である。膨電子の質量は、表のように陽子、中性子に比べると非常に軽い。

牛乳1本の水の重さは180gだからビンには10モル(水1モルは18g)の水が入ることになる。1モルには 6×10^{23} の水分子(アボガドロ数)があるので、牛乳1本中の水分子は 6×10^{24} 個ある。

また、水1分子中の陽子と中性子は18個(水素1×2、酸素16)である。したがって、水10モル中の陽子と中性子の重さは、 $18 \times 1.67 \times 10^{-24} \times 6 \cdot 10^{24} = 180g$ となり、水分子の重量は陽子と中性子と考えることができる。なあ、牛乳1本にギッシリと陽子を詰め込むと110億トンにもなる。

ちなみに、日本の米収穫量は年間 10^{14} 粒(つぶ)程度とされているが、そうすると牛乳1本の水分子数(6×10^{24} 個)は、米600億年分に相当する。

600億年分の米粒が入っていると思って、1本の牛乳1本を眺めるのも一興である。

(荒木)

荒木さん全国公害研協議会長賞 授賞!

全国公害研協議会は、本年度から試験研究機関の職員で、業務に積極的に取り組み、調査研究等に顕著な功績が認められた職員に対し、会長表彰を実施することをきめ、その第一回の表彰が11月15日に総会(東京)で行われました。

全国に該当者が多数おられるなか、厳正な審査を経て7名が決定し、当所の荒木邦夫特別研究員もその一人として選ばれ、職員一同また関係者も大変喜んでいます。

◎荒木さんのプロフィル

昭和30年室工大卒業 道立工業試験場に勤務

50年脱臭法の開発研究で知事表彰

52年学位(工学博士)を取得

54年当所大気部長、59年 特別研究員

特別研究員になられてからは最近問題の酸性雪研究のプロジェクトリーダーとして活躍され、また‘えころぶ北海道’の中でも好評な‘科学よもやま話’は1号から荒木さんが執筆しており、その内容はさすが熟年の研究者によるお話として皆様にお読みいただいている事と思います。(副所長 萬屋和光)

●近況ニュース●

◎日野研究職員、博士号取得!

水質部の日野研究職員が、平成2年9月に京都大学より理学博士号を取得しました。今後のほかの研究職員の励みなることでしょう。

論文名は

Metabolism of phosphorus and organic matter associated with physiological state of phytoplankton in a highly eutrophic Lake Barato

お問い合わせは

〒060 札幌市北区北19条西12丁目

北海道公害防止研究所 総務部企画課

☎011-747-2211(内線 467) FAX 747-3254

(北海道公害防止研究所ニュース編集委員会)

平成2年12月発行